

日米欧でノーロードが増加中!

米国ではRIA等アドバイザーの存在が大きく、欧州では公的年金基金等にも要因がある
 ~投信手数料から見た日米欧の純流出入と純資産~

国際投信投資顧問株式会社 マーケティング企画部 投信調査室長 松尾 健治(まつお けんじ)

投信関連業界では、引き続き、販売手数料と預り資産に注目が集まっている。2014年7月4日に金融庁が公表した「金融モニタリングレポート」でも、「投資信託販売業務態勢」において「資産形成が定着しないのはなぜか。投資信託の乗換え売買による販売手数料により収益を稼ぐ、という経営のインセンティブが金融機関にあることに起因しているのではないか」などと出ている (<http://www.fsa.go.jp/news/26/20140704-5.html>)。

その中、NISAの導入などを契機として「業績評価体系を、これまでの収益への傾斜から残高や顧客基盤拡大を重視する方向へ転換」や「販売計画においても、手数料収益の目標を引き下げ、投資信託の預り資産残高の積み上げを重視する方針へと転換」など、「投資信託販売姿勢の変化」も出ていることが「金融モニタリングレポート」で指摘されている。

実際、どうだろう? そこで今回は最新データに基づき、投信手数料から見た日本の純流出入と純資産、さらに米国や欧州のものも確認、洞察を加える。日本における資産形成の定着の一助になれば幸いである。

投信手数料から見た純流出入と純資産(日本) ~純資産は少ないもののノーロードが増加傾向~

まず投信手数料から見た日本の純流出入と純資産を確認する。グラフ①は日本籍国内投信の購入時手数料(税抜最大)別純設定(推計)の推移である。

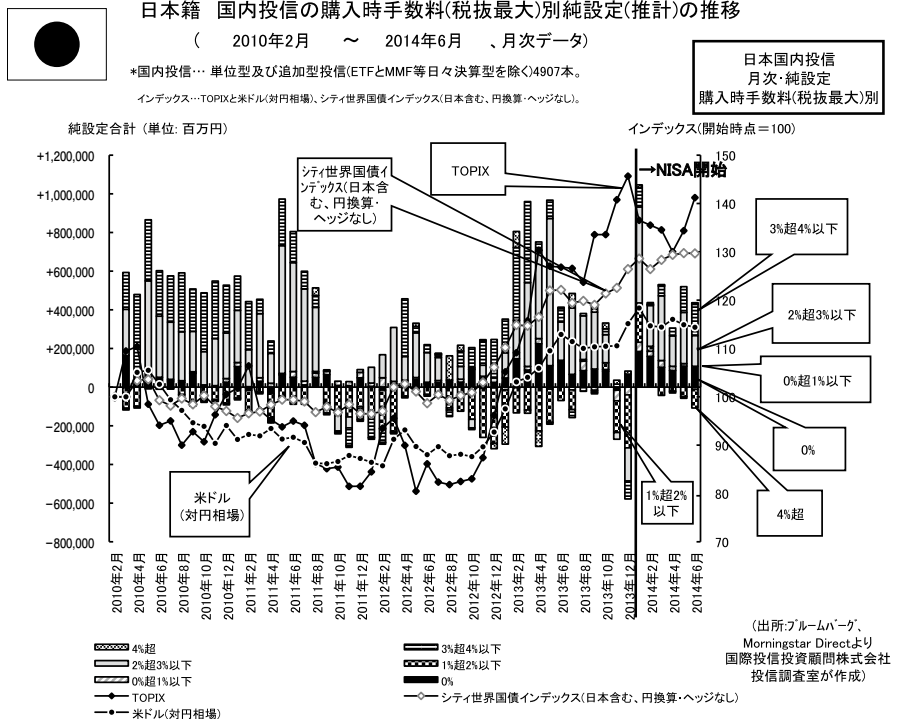
最新2014年6月の純設定は+3286億円の純流入。そのうち、「3%超4%以下」が+1671億円の純流入、「2%超3%以下」が+1592億円の純流入、「0%」つまりノーロードが+1079億円の純流入、「4%超」が+23億円の純流入、「0%超1%以下」が-121億円の純流出となっている(ノーロード:「購入時手数料ゼロ」~日経マネー 2014年7月号)。

このグラフ①に示される通り、傾向として純設定の大半を占めてきた「3%超4%以下」や「2%超3%以下」は減少傾向にあり、「0%」つまりノーロードは増加傾向にあ

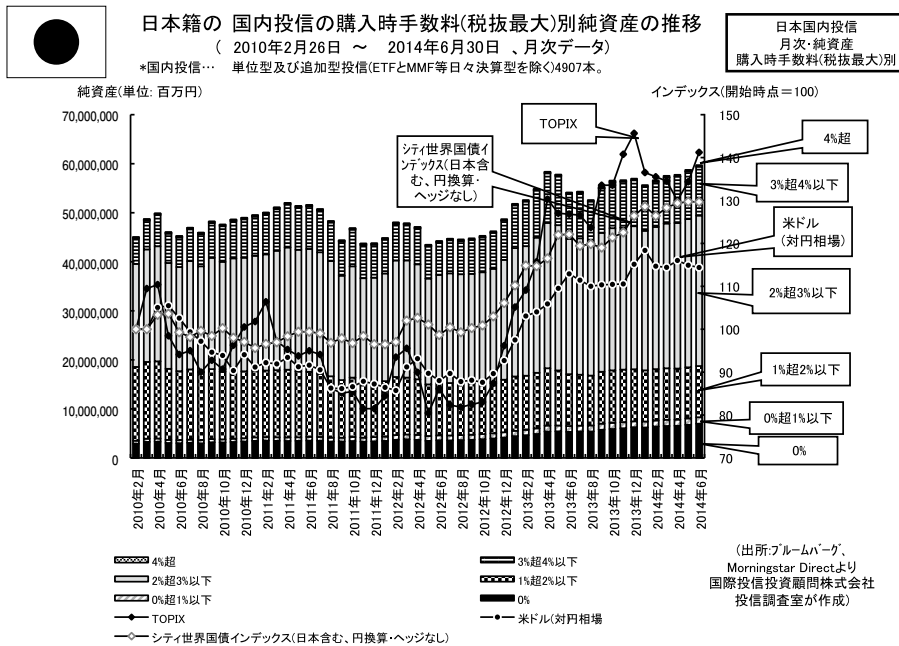
るように見える。先の「金融モニタリングレポート」での指摘、「投資信託販売姿勢の変化」は購入時手数料の面で、徐々に起きてはいるようである。

グラフ②はグラフ①を純資産で見たものである。

グラフ①



グラフ②



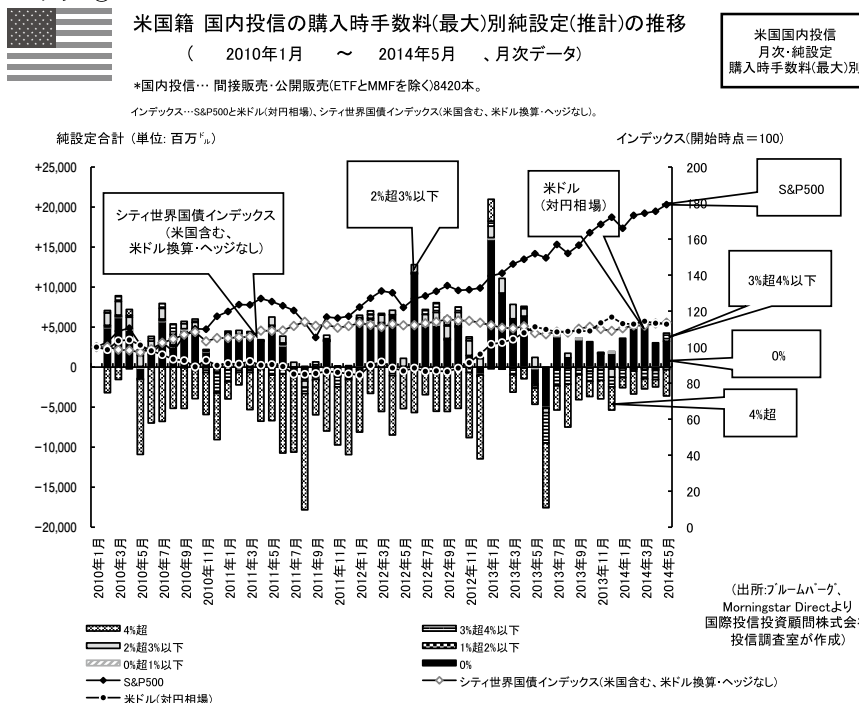
「2%超3%以下」が約30兆円(占率は約51%)、「3%超4%以下」は約10兆円(占率は約17%)、「1%超2%以下」も約10兆円(占率は約17%)、「0%」つまりノーロードは約7兆円(占率は約12%)、「0%超1%以下」は約1兆円(占率は約2%)となっている。「1%超2%以下」が減少傾向にある中、「2%超3%以下」とノーロードが増加傾向にある。

投信手数料から見た
純流出と純資産(米国)

～ノーロードの純流入傾向、
「4%超」の純流出傾向が顕著～

次に投信手数料から見た米国の純流出と純資産を確認する。日本の投信との比較が目的なので、日本で圧倒的に多い「間接販売・公開販売」を見る(米投信の販売チャンネルについて詳しくは月刊「投資信託事情」2014年7月号 Strategic Vistas参照)。グラフ③は米国籍国内投信の間接販売・公開販売の購入時手数料(最大)別純設定(推計)の推移である。最新2014年5月の純設定は+643百万ドルの純流入。そのうち、「0%」つまりノーロードが+3236百万ドルの純流入、

グラフ③



「3%超4%以下」が+1014百万ドルの純流入、「2%超3%以下」が-308百万ドルの純流出、「1%超2%以下」が-9百万ドルの純流出、「0%超1%以下」が-8百万ドルの純流出、そして「4%超」が-3282百万ドルの純流出となっている。ノーロードの純流入傾向、「4%超」の純流出傾向が顕著である。

グラフ④はグラフ③を純資産にしたものである。「4%超」が純資産で過半数を占め(占率は約52%)、「0%」つまりノーロードがそれに次ぐ純資産だ(占率は約38%)。ノーロードは他のどの手数料率(レンジ)より早いペースで

純資産を増やしている。日本では「2%超3%以下」が圧倒的な大きさだったが(占率は約51%)、米国ではその「2%超3%以下」はかなり小さな存在であり(占率は約4%)、日本で占率が約17%あった「3%超4%以下」も小さな存在だ(占率は約2%)。「1%超2%以下」や「0%超1%以下」にいたっては米国の間接販売・公開販売にほとんどない(占率は約0%)。

グラフ④

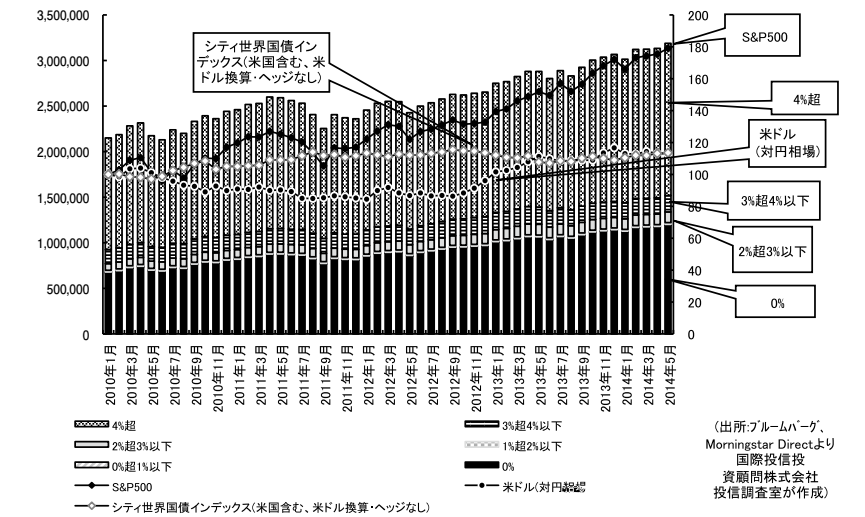
米国籍 国内投信の購入時手数料(最大)別純資産の推移

(2010年1月29日 ~ 2014年5月30日、月次データ)

*国内投信… 間接販売・公開販売(ETFとMMFを除く)8420本。

インデックス… S&P500と米ドル(対円相場)、シティ世界国債インデックス(米国含む、米ドル換算・ヘッジなし)。

インデックス(開始時点=100)



る(小規模業者は州登録へ)。米有力金融専門誌のパロンズが選定している全米トップ100のファイナンシャル・アドバイザーによれば、その預かり残高の単純平均は約1兆円で、一口座当たり平均預かり残高の単純平均は109億円(テーブル①参照)。明らかに一般個人投資家が預ける額ではないだろう。

全米トップ100のファイナンシャル・アドバイザーはMerrill LynchやMorgan Stanleyなど、ワイヤー・ハウス(wirehouse)と呼ばれる大手証券会社(投資銀行)系が預かり残高の9割以上を占める。

投信手数料から見た純流出入と純資産(米国・ノーロード) ~ 機関投資家やRIA等ファイナンシャル・アドバイザーのための投信が純流入傾向~

以上のデータだけから見えるのは、「4%超」がノーロードにシフトしている姿である。だが、米投信はそれほど単純ではない。注意すべきはシフト先のノーロードの中身にある。そこで、投信手数料から見た米国の純流出入と純資産をノーロードだけで確認する。

グラフ⑤は米国籍国内ノーロード投信(間接販売・公開販売)のシェアクラス別の純設定推移である(シェアクラス詳しくは月刊「投資信託事情」2014年7月号 Strategic Vistas参照)。

ノーロード投信で純設定が過半数となっているシェアクラスは「F(RIA)クラス等」で、次いで「アドバイザー・クラス」である。これらは、「Registered Investment Advisers (RIA) / 登録投資顧問業者」等ファイナンシャル・アドバイザーのための投信である。RIAは25百万ドル(約26億円)以上の預かり残高を持つ大規模投資一任業者で米証券取引委員会(SEC)に登録することを義務付けられている

その中で、独立系ファイナンシャル・アドバイザーとして上位常連なのが、Convergent Wealth Advisors。1994年設立で2013年末において預かり残高110億ドル(約1.1兆円)。どのような顧客を持っているかということ、「一般的に、1000万ドル(約10億円)からで、手数料は1000万ドル(約10億円)なら年1.0%、1500万ドル(約15億円)なら年0.5%、2500万ドル(約25億円)なら年0.4%、それ以上なら年0.3%」である(同社ホームページより)。

グラフ⑤

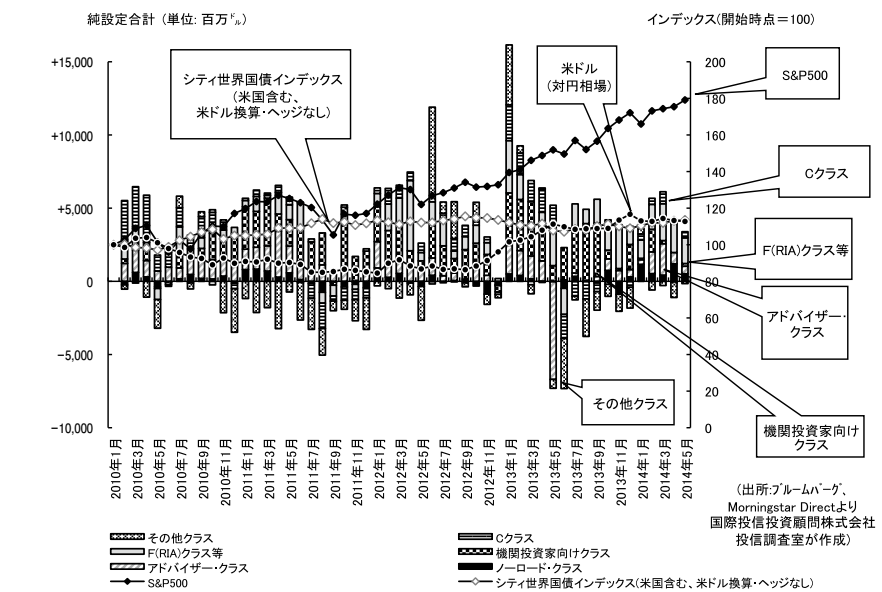
米国籍 国内ノーロード投信のシェアクラス別純設定(推計)とインデックスの推移

(2010年1月 ~ 2014年5月、月次データ)


*国内ノーロード投信… 間接販売・公開販売(ETFとMMFを除く)5478本。

インデックス… S&P500と米ドル(対円相場)、シティ世界国債インデックス(米国含む、米ドル換算・ヘッジなし)。

米国国内ノーロード投信 月次・純設定 シェアクラス別



テーブル① パロンズが選定した全米トップ100のファイナンシャル・アドバイザー
(2014年)

		預かり残高	一口座当たり 平均預かり 残高	富裕層顧客の 平均預かり 残高
	(単純平均) 百万ドル	9,946	104	224
	(単純平均) 億円	10,474	109	236

(出所: パロンズより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成) *2013年末で円換算。

これらの顧客から預かった資金が、先の「F (RIA) クラス等」やETFなどに投資されるのである。金額が大きくなればなるほど投信手数料率は下がる。だが金額自体が数十億円規模なので、採算は十分取れる。米国の投信手数料が世界的に見ても低い理由にはこのような背景がある。

株式投資信託の平均購入額が373万円、購入額100万円未満が26%、同100万円以上300万円未満が39.5%、そして同1000万円以上が10%の日本とはかなり違う世界である (投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査報告書-2013年」より)。

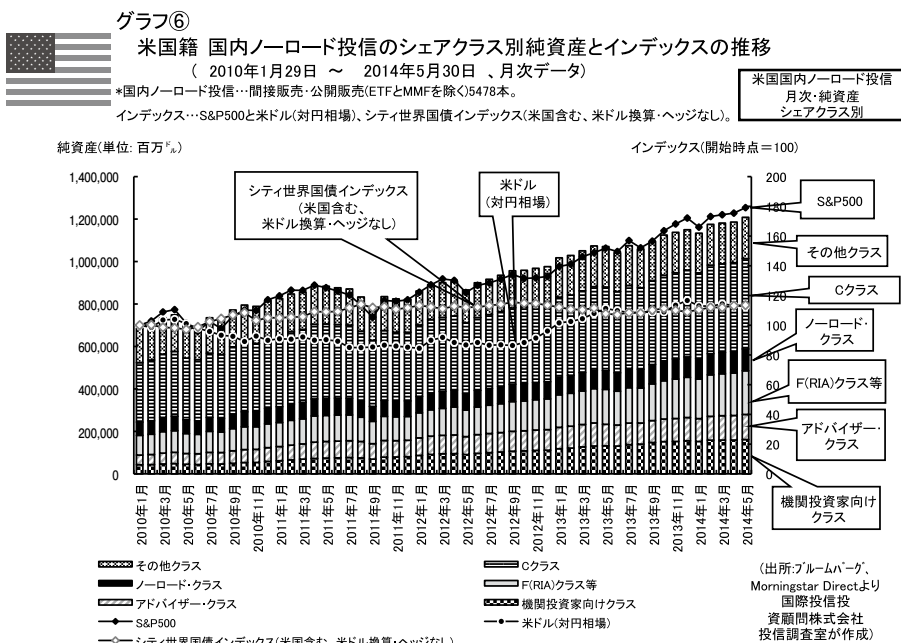
米国のRIAだが、預かり資産額の増減に応じて顧客から報酬を受け取っており、報酬は特定の金融商品には連動しない。つまり、ノーロードでないといけない。ノーロードだけでも投信会社から販売奨励金「レベニュー・シェアリング」(revenue sharing)を受け取ることも行われているが、それさえ今は問題視されている。2013年4月5日付米ロイターに「登録投資顧問業者 (RIA) のうち少なくとも3社が、特定のミューチュアルファンド (投資信託) への投資額に応じた報酬を受け取っていたことが、当局への申請書類で分かった。利益相反の懸念があり、規制当局の処分を受ける可能性もある。… (略) …。売買手数料無しのミューチュアルファンドは投資家に人気だが、一部の投資顧問によると、こうしたファンドの方が手数料有りのファンドよりも経費は高い。」と報じている通りである。

2014年6月12日付の米InvestmentNews誌によると、RIAが顧客より受け取る平均コストは年1.83% (the adviser fee+administrative fee+platform fee+product fee)、それに販売奨励金「レベニュー・シェアリング」(revenue sharing)が入るこ

ととなる。ちなみに、2014年5月21日付米WSJ紙によると、こうしたRIA等が米国において2007年の3万6000人から4万7000人に増加し、2017年には5万1000人になると予想されている。今後も「F (RIA) クラス等」や「アドバイザー・クラス」が人気を集め、ノーロードが増えていくことが予想される。

グラフ⑥はグラフ⑤を純資産にしたものである。「Cクラス」が純資産で多く、「F (RIA) クラス等」が、他のどのシェアクラスよりも速いペースで増加している。「Cクラス」は一般個人投資家でも買えるシェアクラスであり、ノーロードである。だが、換金時手数料が1%、さらに日本の代行手数料に近い「12b-1手数料」が上限の (最大の) 1%にもなることもあるシェアクラスである (12b-1手数料について詳しくは月刊「投資信託事情」2014年7月号 Strategic Vistas参照)。

より理解を深めるために個別ファンドでも確認しておく。テーブル②は米国籍間接販売・公開販売 (Non-Proprietary) 投信の純資産トップ10である。手数料有りのファンド、Aクラスがずらりと並んでいる。Aクラスは初期最小購入単位が250ドル (約2万5000円) と小さく、一般個人投資家でも買える。ただし購入時手数料が5.75%となる。だが、Aクラスには大口割引となる場合もあるし、「CDSC (Contingent Deferred Sales Charge、条件付繰延販売手数料)」を選択して購入時



を0%にできる場合もある。Aクラスはやはり購入時の手数料の高さから、先述した通り、純流出傾向になっている可能性はある。

テーブル③は（先述のテーブル②の中に含まれる）ノーロード投信の純資産トップ10である。アドバイザー・クラスやCクラス、機関投資家向けクラス、そして、F（RIA）クラス等が並ぶ。購入時手数料は0%だが、初期最小購入単位が100万ドル（約1億円）や500万ドル（約5億円）と大きいものもある。F（RIA）クラス等に初期最小購入単位250ドルと少額のものもあるが、RIAが対象であり、一般個人投資家はそもそも買えないシェアクラスである。先述のテーブル②のAクラスに比べ、CクラスなどはFund Expenseが高くなっている（*Fund Expense：年間の信託報酬等を各運用報告書から抜き出し、それを年間の平均純資産で割って年率としたもので、ここには12b-1手数料が含まれるが、一回限りの購入時・換金時手数料は含まれない）。

以上から示唆されることは、ファイナンシャル・ア

ドバイス等のある間接販売において、米国では、購入時手数料を徴収するのであれば「4%超」、それ以下の場合、購入時手数料については「0%」、もしくは「0%」の選択肢を用意しているが、別途、①換金時手数料や「CDSC（Contingent Deferred Sales Charge、条件付繰延販売手数料）」などで徴収する、②12b-1手数料など信託報酬等で徴収する、③初期最小購入単位を大きくし顧客1人あたりのファイナンシャル・アドバイス効率を上げ経費削減をする、などとなるのが一般的であるということだ。このあたりの多様性が日本との違いであり、しっかり理解しておきたいところである。

投信手数料から見た純流出入と純資産（欧州）

～ノーロードの純流入傾向が圧倒的～

投信手数料から見た欧州の純流出入と純資産を確認する。NISAで日本が範とする英国の投信について見たいが、英国籍投信では英国投資家がかなり保有するルクセンブルク籍投信などが除かれており、英国販売投信では英国外の投資家が含まれる。そこで、欧州全

テーブル② 米国籍間接販売・公開販売(Non-Proprietary)投信の純資産トップ10

2014年5月末現在

順位	ファンド(クラス)名	グローバル分類 (モーニングスター分類)	投信会社名	設定日	シェア クラス	純資産 (ファンド) (百万ドル)	初期最小 購入単位 (ドル)	Fund Expense 年率 (%) (※1 参照)	購入 時手 数料 最大 (%)	換金 時手 数料 (%)	12b-1 Fee	分配 回数/ 年
1	American Funds Inc Fund of Amer A	アセットアロケーション標準型	American Funds	1973/11/30	A	71,746	250	0.58	5.75	0.00	0.24	4
2	American Funds Growth Fund of Amer A	米国大型グロース株	American Funds	1973/11/30	A	71,528	250	0.70	5.75	0.00	0.24	1
3	American Funds Capital Inc Bldr A	アセットアロケーション柔軟型	American Funds	1987/7/30	A	69,891	250	0.61	5.75	0.00	0.24	4
4	American Funds Capital World G/I A	グローバル株	American Funds	1993/3/26	A	57,842	250	0.80	5.75	0.00	0.24	4
5	American Funds Invmt Co of Amer A	米国大型フレンド株	American Funds	1934/1/2	A	57,235	250	0.61	5.75	0.00	0.23	4
6	Franklin Income A	アセットアロケーション慎重型	Franklin Templeton Investments	1948/8/31	A	54,883	1,000	0.62	4.25	0.00	0.15	12
7	American Funds Washington Mutual A	米国大型バリュ株	American Funds	1952/7/31	A	51,305	250	0.62	5.75	0.00	0.24	4
8	American Funds American Balanced A	アセットアロケーション標準型	American Funds	1975/7/25	A	44,580	250	0.61	5.75	0.00	0.24	4
9	American Funds Fundamental Invs A	米国大型フレンド株	American Funds	1978/8/1	A	42,749	250	0.63	5.75	0.00	0.24	4
10	American Funds New Perspective A	グローバル株	American Funds	1973/3/13	A	37,244	250	0.79	5.75	0.00	0.24	1
8420本 *純資産は合計、その他は単純平均。						3,188,603	27,201	1.47	1.68	0.85	0.52	4.86

(出所: Morningstar Directより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

※1: Fund Expense…年間の信託報酬等を各運用報告書から抜き出し、それを年間の平均純資産で割って年率としたもの(%)。ここには年間を通して払われる米国の12b-1手数料(販売・クライアントサービス・広告等手数料)が含まれる一方で一回限りの購入時・換金時手数料は含まれない。

テーブル③ 米国籍間接販売・公開販売(Non-Proprietary)ノーロード投信の純資産トップ10

*ノーロード投信…購入時手数料0%の投信。

2014年5月末現在

順位	ファンド(クラス)名	グローバル分類 (モーニングスター分類)	投信会社名	設定日	シェア クラス	純資産 (ファンド) (百万ドル)	初期最小 購入単位 (ドル)	Fund Expense 年率 (%) (※1 参照)	購入 時手 数料 最大 (%)	換金 時手 数料 (%)	12b-1 手数料 年率 (%)	分配 回数/ 年
1	Templeton Global Bond Adv	グローバル債	Franklin Templeton Investments	1996/12/31	アドバイザー	35,673	1,000,000	0.61	0.00	0.00	0.00	12
2	Franklin Income C	アセットアロケーション慎重型	Franklin Templeton Investments	1995/5/1	C	28,473	1,000	1.12	0.00	1.00	0.65	12
3	BlackRock Global Allocation Inv C	アセットアロケーション柔軟型	BlackRock	1994/10/21	C	16,593	1,000	1.80	0.00	1.00	1.00	2
4	Malinay Marketfield I	ロング・ショート	Ma機関投資家向けay	2007/7/31	機関投資家向け	16,142	5,000,000	1.52	0.00	0.00	0.00	1
5	PIMCO Total Return D	米国債券	PIMCO	1998/4/8	D	14,461	1,000	0.75	0.00	0.00	0.25	12
6	Fidelity® Total Bond	米国債券	Fidelity Investments	2002/10/15	ノーロード	13,743	2,500	0.45	0.00	0.00	0.00	12
7	American Funds EuroPacific Gr F2	グローバル大型株	American Funds	2008/8/1	F(RIA)等	12,754	250	0.59	0.00	0.00	0.00	1
8	First Eagle Global C	アセットアロケーション柔軟型	First Eagle	2000/6/5	C	12,497	2,500	1.87	0.00	1.00	1.00	1
9	BlackRock Strategic Income Opps Instl	その他債券	BlackRock	2008/2/5	機関投資家向け	11,522	2,000,000	0.65	0.00	0.00	0.00	12
10	American Funds Growth Fund of Amer F1	米国大型グロース株	American Funds	2001/3/15	F(RIA)等	11,071	250	0.71	0.00	0.00	0.25	1
5478本 *純資産は合計、その他は単純平均。						1,208,385	40,766	1.61	0.00	1.31	0.67	4.74

(出所: Morningstar Directより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

※1: Fund Expense…年間の信託報酬等を各運用報告書から抜き出し、それを年間の平均純資産で割って年率としたもの(%)。ここには年間を通して払われる米国の12b-1手数料(販売・クライアントサービス・広告等手数料)が含まれる一方で一回限りの購入時・換金時手数料は含まれない。

体で販売されている投信を見ることとする(*あまりに多いので純資産上位10000本について)。グラフ⑦が欧州販売内外籍投信の購入時手数料(最大)別純設定(推計)の推移である。最新2014年5月の純設定は+3兆5549億円の純流入。そのうち、「0%」つまりノーロードが+2兆8621億円の純流入、「2%超3%以下」が+4673億円の純流入、「4%超」が+3074億円の純流入、「0%超1%以下」が+1305億円の純流入、「1%超2%以下」が+831億円の純流入、「3%超4%以下」が-2956億円の純流出。ノーロードの純流入傾向が圧倒的である。

グラフ⑧はグラフ⑦を純資産にしたものである。「0%」つまりノーロードが最も大きく(占率は約36%)、「4%超」が次ぐ(占率は約30%)。「2%超3%以下」は、日本では圧倒的な大きさ(占率は約51%)であった一方で米国ではかなり小さな存在だったが(占率は約4%)、欧州でも大きくはない(占率は約12%)。日本で占率が約17%あった「3%超4%以下」は米国では小さな存在であったが(占率は約2%)、欧州は日本と米国の中間に位置する(占率は8%)。「1%超2%以下」や「0%超1%以下」については米国のように0%ということはないものの、欧州でも小さい存在である(占率は各々約7%と8%)。

欧州は米国ほどではないものの、ファイナンシャル・アドバイス等のある間接販売において、購入時手数料を徴収するのであれば「4%以上」は必要で、それ以下の料率であるのなら「0%」として他の徴収方法にするということは米国と似ている。

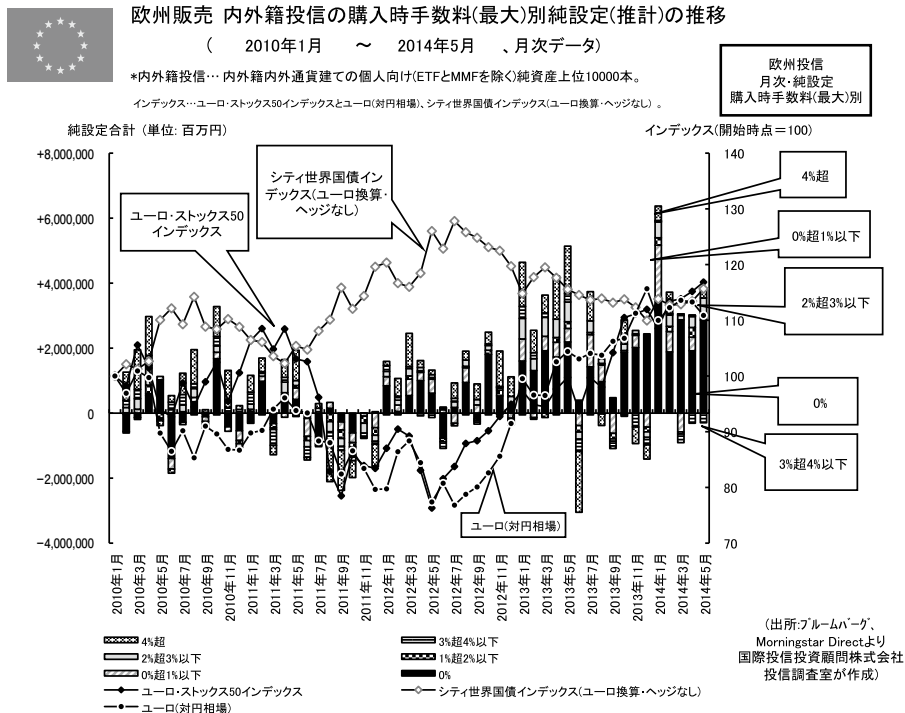
欧州投信も注意すべきはノーロードの中身である。ただ、欧州投信には米国のようなシェアクラスが無いので、個別ファンドの純

資産上位ファンドで確認する。個別ファンドの購入時手数料はノーロードと「4%以上」にほぼ二極化しており、ノーロードは短期金融商品(マネーマーケット)ファンド中心だ。日本でも短期金融商品(マネーマーケット)ファンドは、基本、ノーロードで低コストである。

その中、純資産10位の「Global Equity Large Cap」はグローバル株式ファンドとなっている。ただし、初期最小購入単位約500万円(5万ドル)で信託報酬率実質

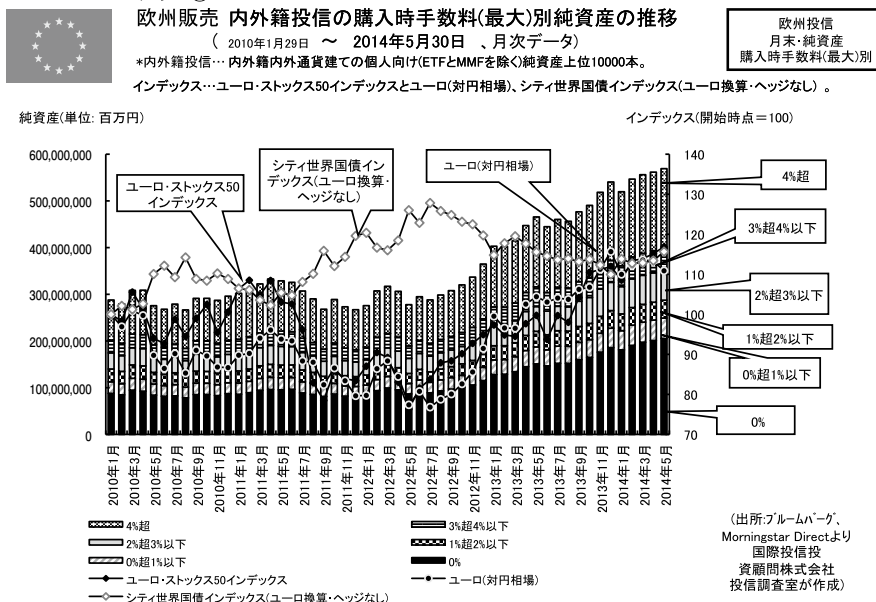
グラフ⑦

欧州販売 内外籍投信の購入時手数料(最大)別純設定(推計)の推移
(2010年1月 ~ 2014年5月、月次データ)



グラフ⑧

欧州販売 内外籍投信の購入時手数料(最大)別純資産の推移
(2010年1月29日 ~ 2014年5月30日、月次データ)



年3.25%となる。そして最も気になるのが約3兆円の残高で純資産1位に位置する「AP7 Aktiefond」である。グローバル株式ファンドであり、スウェーデンの一般個人が買える。さらに信託報酬率年0.12%と極めて低い。これは確かに魅力的である。実はこのファンドは公的年金基金のデフォルトファンドである。

より具体的には、AP-fonden (スウェーデン公的年金基金) には、①NDC (Notional Defined Contribution、個人所得の16%)、②FDC (Financial Defined Contribution、個人所得の2.5%)、③GP (Guaranteed Pension) の3つがあり、②FDCを管理する基金がThe premium pension (AP7) である。このAP7は登録された民間ファンド800本前後から5本まで個人が各々選択できるものであるが、仮に選択しないとデフォルト・ファンドの「AP7 Säfa」となる。ただここで個人は「AP7 Säfa」の中にある5つのファンドをリスクに応じて選ぶこととなる。その5つのファンドで最も高いリスクのファンドが、この1位の座にある「AP7 Aktiefond」なのである。

ちなみに最も低いリスクのファンドは「AP7 Rantefond」で1965億円あって418位である。一般個人が買えるには買えるが、購入単位に「個人所得の2.5%」という制約があるわけだ。もちろんスウェーデンの個人しか買えない。こうした実態を知らず、欧州の個人向けファンド最大のファンドには「誰でも買えるグローバル株式ファンドがノーロードで信託報酬率年0.12%で提供されている」と

考え、それを日本に当てはめることが何を意味するかは、もはや言うまでもないだろう。

以上、日米欧の多くのデータを見てきた。これだけでも発見することが多かったと思われる。2014年6月24日に閣議決定された『日本再興戦略』改訂2014－未来への挑戦－において、「日本のGDP全体の約70%を占めるサービス産業の生産性を向上させるため、ビッグデータを活用したマーケティングをはじめとした革新的な経営を促進していくことが重要」とあったが、これは投信にも言えると思われる（その他、「NISAの普及促進に向け、制度の趣旨や利用者のニーズを踏まえた施策の推進や金融経済教育の充実等により投資家の裾野拡大を図る」などもある～ <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/honbun2JP.pdf>）。こうしたデータをほとんど見ず、人から聞いたこと、思い込みだけで、意思決定や行動をすることは避けたい。ただ、多くのデータを見るだけでは不十分で、それだけでは先述通り、米欧でのノーロード人気の実態がわからない。単にノーロードを増やしたり、投信手数料を下げたりしても、欧米で起きているような投信拡大は日本で起きない可能性が高いだろう。もっと踏み込み、洞察を加えることが必要である。投信でもビッグデータを活用し、洞察を加え、革新的な経営を促進、資産形成の定着を期待したい。

テーブル④ 欧州販売内外籍投信・個人向けファンドの純資産上位10ファンド
*内外籍内外通貨建ての個人向け(ETFとMMFを除く)純資産上位10000本。

2014年5月末現在

通貨	ファンド名	グローバル分類 (モーニングスター分類)	国籍	投信会社名	設定日	純資産 (クラス) (百万円)	初期最小 購入単位 (万円)	購入 時手 数料 最大 (%)	換金 時手 数料 (%)	信託 報酬 率(税 抜・年 率%)	成功 報酬 (%)
スウェーデン・クローナ	AP7 Aktiefond(※1)	Global Equity Large Cap	スウェーデン	Sjunde AP-Fonden(スウェーデン公的年金基金)	2010/5/10	2,924,539	0	0.00	0.00	0.12	0.00
ユーロ	Carmignac Patrimoine A EUR acc	Moderate Allocation	フランス	Carmignac Gestion	1989/11/7	2,764,991	0	4.00	0.00	1.56	10.00
ユーロ	Amundi Trésor EONIA ISR I	Euro Money Market	フランス	Amundi	1988/4/8	2,266,298	0	0.00	0.00	0.10	50.00
英ポンド	LGIM Sterling Liquidity I	Sterling Money Market	アイルランド	Legal & General Investment Management	2008/1/9	2,432,013	853,308	0.00	2.00	0.10	0.00
ユーロ	M&G Optimal Income A-H Grs Acc Hdg EUR	Cautious Allocation	英国	M&G Group	2007/4/20	2,068,654	14	4.00	0.00	1.25	0.00
ユーロ	Amundi Trésor 3 Mois I	Euro Money Market	フランス	Amundi	1999/11/26	1,827,070	0	0.00	0.00	0.15	30.00
英ポンド	BlackRock ICS Sterling Liq Agency Inc	Sterling Money Market	アイルランド	BlackRock Asset Management Ireland Ltd	2007/11/30	1,552,086	17,066	0.00	0.00	0.30	0.00
ユーロ	Deka-ImmobilienEuropa	Property-Direct	ドイツ	Deka Immobilien Investment GmbH	1997/1/20	1,739,619	21	5.26	0.00	0.75	0.00
ユーロ	Union *	Euro Money Market	フランス	CM-CIC Asset Management	1995/7/7	1,936,688	0	0.00	0.00	0.36	0.00
米ドル	Orbis Global Equity	Global Equity Large Cap	バミューダ	Orbis Investment Management Limited	1989/12/31	1,546,494	509	0.00	0.00	3.25	0.00
10000本 *純資産は合計、その他は単純平均。						572,015,637	22,950	2.56	0.28	10.19	2.19

(出所: Morningstar Directより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

※1 AP7 Aktiefond... AP-fonden(スウェーデン公的年金基金)は①NDC(Notional Defined Contribution、個人所得の16%)、②FDC(Financial Defined Contribution、個人所得の2.5%)、③GP(Guaranteed Pension)から構成され、②FDCの資金を管理する基金がThe premium pension(AP7)。AP7は登録された民間ファンド800本前後から5本まで個人が各々選択出来るが、もし選択しないとデフォルト・ファンド「AP7 Säfa」となっており、「AP7 Säfa」の中の5つのファンドをリスクに応じて選ぶこととなり、その5つのファンドの中で最も高いリスクがAP7 Aktiefondで1位/2兆9245億円ある(*最も低いリスクがAP7 Rantefondで418位/1965億円)。

(以上は筆者の個人的な見解である)

略歴: 1959年生まれ。静岡大学人文学部経済学科卒。日興アセットマネジメントのファンドマネージャー、リッパー・ジャパン (ロイター・ジャパン) のアナリスト、ドイチェ・アセット・マネジメントのストラテジストなどを経て2009年7月より現職。1987年より公益社団法人日本証券アナリスト協会検定会員。

著書: 日本実業出版社「本当に知りたい投資信託 儲け・手数料・評価のしくみ」(2007年10月20日発行)、青春出版社「図解『為替』のカラクリ」(2003年5月10日発行)、同「図解『為替』のカラクリ 賢く増やす! 外貨投資入門編」(2006年7月15日発行)、など。